

大会プログラム

\*〔教〕専任教員、〔研〕研究員、〔院〕大学院学生

<p>〈大会企画〉シンポジウム「これからの古典教育を考える」                  趣意説明・司会 奈良教育大学〔教〕 有馬 義貴                  基調報告1「古典教育という営為—国語科教員の立場から—」                  奈良女子大学附属中等教育学校〔教〕 井浪 真吾                  基調報告2「うたを重ねる—和歌短歌・和漢比較教材とメディア文化—」                  宮崎大学〔教〕 中村 佳文                  基調報告3「古典の魅力を発見させること—研究は教育に活かせるか—」                  和洋女子大学〔教〕 吉井美弥子                  パネリスト討議・質疑応答</p>	<p>リアルタイム                  中継型                  10月17日(土)                  午後</p>
<p><b>研究発表会</b>（以下の配列は秋季大会申込受付順。○印は、2020年度春季大会発表予定者。）                  『源氏物語』若紫巻異見—「及びなう思しもかけぬ筋」をめぐって—                  国文学研究資料館〔教〕 岡田 貴憲                  教科書の中の「藤原道長」                  —「望月」の表象と〈戦前〉の歴史教育、国語教育をめぐって—                  ○鹿島文庫〔研〕 坪 美奈子                  清水浜臣書入れ本『枕草子春曙抄』「山は」段の考察                  —加藤馨齋『清少納言枕草紙抄』との関係を起点として—                  ○東北大学〔院〕 渡邊 美希                  『在明の別』の人物と構造—作中和歌の検討から—                  九州大学〔教〕 辛島 正雄                  『源氏物語』匂宮の薫物と〈園芸残渣〉について—香りを創る人としての再考—                  佐賀大学〔研〕 田中 圭子                  『土左日記』における日次記の効用—漢文日記との比較から—                  北海道大学〔院〕 大場 健太                  狭衣物語・深川本系本文享受の様相                  —為明本における「九重の」歌およびその周辺本文を例として—                  大阪大学〔院〕 小林 理正                  『うつほ物語』の琴の名称と漢籍との関係について                  ○國學院大學〔院〕 本間 悠子                  「餞」歌考                  ○皇學館大学〔教〕 吉井 祥</p>	<p>オンデマンド                  配信型                  10月17日(土)                  10月18日(日)</p>
<p>第13回中古文学会賞受賞者発表                  総会</p>	
<p>委員会</p>	<p>メール審議                  10月17日(日)</p>

発表要旨、参加方法等の詳細は、学会公式サイト・大会特設ページからご確認ください。